

た。
 (七) 金の錯体を世界で最初に合成。金の性質を明らかにし、金の選択的捕捉の途を開くと共に、この錯体が、金メッキ剤として従来のシアン化合物以上に優れている(無公害、再利用可能等)ことを発見した等。化学には、新化合物、新測定法、新理論と

三つの画期的な進め方がある。我々は、我々の蓄積した研究成果知見に基づくオリジナルな化合物をデザイン合成するという第一のパートナーを選択した。その化学的性質を徹底的に追究し、有機、無機、錯体、分析、生化学、医薬学等あらゆる学問的方法を駆使して新規機能性化合物へと展開することができた。

に従来の「分子」概念を越えた「超分子」概念の誕生など、その発見は今世紀後半の科学史上画期的な出来事であったといえよう。一九八七年、その功績が認められ、発見者ペダーセン氏と、仏国、ジャン・マリイ・レーン教授、米国、ドナルド・J・クラム教授がノーベル化学賞を受賞された。

医学部活性構造化学講座

アイザット・クリステンセン賞 受賞紹介

小池 透

本年八月、米国ユタ州ブリガムヤング大学で開催された第十七回大環状化学国際学会において、本学木村榮一教授が第二回国際学会賞を受賞された。受賞理由は、「大環状ポリアミン化合物の合成と新機能発見」である。木村教授自身の別記事にあるように、木村教授は、一九七五年より一貫してオリジナルな大環状ポリアミン分子のデザインと合成を行い、金属錯体、アニオン錯体化学、触媒、人工酵素、生体機能の化学的解明、医薬品、ロボット分子創造等、従来の分子概念を越える新たな学問分野を開拓された。受賞式では「木村教授の業績は、非常に独創的であり、有機化学、無機錯体化学、分析化学、生化学、医薬品化学等の諸原理を見事に総合した、類まれなる大きな視野をもち、かつ美しいもの

である」と紹介された。さらに、「持ち前の創造的天分を大環状化学研究で存分に発揮され、その結果、将来性豊かで大きな実りが期待される次世代の科学テーマへと発展された。大環状化学を通じて諸分野に与えたインパクトと、諸現象の奥に隠されている普遍性を見抜いた力は、全くすばらしい」と称賛された。大環状化合物(クラウンエーテル)は、チャールズ・J・ペダーセン氏が一九六七年(当時、米国デュボン社研究員)に偶然発見したもので、従来の化学概念を変えた、全く新しい化合物であった。この発見を契機に、世界のあらゆる分野の基礎・応用化学の研究者は、その意義を直ちに認識し、化学研究における大潮流となった。その後、相次ぐ画期的な研究成果、他分野への波及効果、さら

に従来の「分子」概念を越えた「超分子」概念の誕生など、その発見は今世紀後半の科学史上画期的な出来事であったといえよう。一九八七年、その功績が認められ、発見者ペダーセン氏と、仏国、ジャン・マリイ・レーン教授、米国、ドナルド・J・クラム教授がノーベル化学賞を受賞された。

国際学会の第一回開催は一九七七年、クラウンエーテル等の機能性大環状化合物化学のパイオニア研究者アイザットとクリステンセン両教授を擁するブリガムヤング大学で開催された。以後、毎年世界各地で行われ、回を重ねる毎に加速度的にその研究人口も増加し、研究内容も拡大進歩を遂げている。一九八七年には、アジア地域では初めて、第十二回国際学会が広島市で開かれ、木村教授が組織委員長を務められた。

学会賞の「アイザット・クリステンセン賞」は、昨年設けられ、第一回は仏・ストラスブール大学・化学科のサバージュ教授が「卓越したアイデアに基づく鎖状化合物の合成」の研究により受賞されている。

この学会賞は、ノーベル賞に匹敵するような画期的な研究であること、基礎・応用を含めて他学問へのインパクトが大きく、新たな学問の創成につながるなど、政治的配慮なしに学問だけの厳しい基準が設けられている。受賞者選考は、ノーベル賞のレーン教授とクラム教授を含む五人の国際審査委員によって、世界中から推薦された候補者の中から毎年一名が選出される。